

「地球畑方式」と新たな取組  
～ オーガニックで未来へ繋ぐ ～

2025年10月3日



かごしま有機生産組合

Kagoshima Organic Farmer's Association

# 組合の概要

生産農家数 165名（鹿児島県、宮崎県、熊本県）  
JAS有機認証取得 100名 認証ほ場面積 163ha

年間出荷量 野菜約100品目、果樹約20品目  
ニンジン 300ton、タマネギ 150ton、ジャガイモ 140ton  
大根 130ton、サツマイモ 110ton など

有機農産物のおいしさを全国の消費者へ伝えたい



## 無農薬有機栽培が 大原則です

野菜は農薬や化学肥料を原則として一切使いません。果物などやむなく一部防除を必要とするものについては最小限度とし、使用薬剤等は明示します。



## 常に品質向上を 目指しています

根菜部会、果菜部会、果樹部会、米部会、各地域ごとの支部会などを開き、お互いに意見交換し、品質および技術向上を目指しています。



## 地域との交流を 大事にします

つくる人と食べる人がつながる機会を提供し、実際に畑に行ってもらうことで、自分たちの食べている野菜のことを知ってもらいきっかけ作りをしています。



# 主な事業の内容



## 生産事業

南九州全域の生産農家と共に、年間を通して140種類もの各種青果物をバリエーション豊富な地理的優位性を利用し、全国へ出荷しています。



## 販売事業

生産者と消費者をつなぐ直営店3店舗とカフェをはじめ、卸販売、ネット販売と全国各地に有機農産物やこだわりの商品を出荷・販売斡旋しています。



## EC事業

現代ではより身近になったEコマースを最大限活用し、自社内運営で全国へ有機野菜のおいしさを伝える普及と市場発展に励んでいます。



## 加工事業

地元の有機食材を活かし「素材に負けない、加工でごまかさない」商品作りに取り組んでいます。2013年より自社オリジナルブランド「地球畑original」を展開。



## 海外事業

日本という優位性を最大限に活かし、海外市場の開拓に挑戦しながら、途上国へ有機農業の栽培技術・栽培管理ノウハウを広め、海外のどの地域でも有機野菜が手に入る生産基盤を作ることを目指しています。

# 組合の沿革

1978年 5月	鹿児島県有機農業研究会結成
1984年 5月	かごしま有機農業生産者組合立ち上げ
1991年 7月	「有限会社かごしま有機生産組合」法人設立
1992年 1月	地球畑 西田店 開店
1993年 12月	事務所&出荷センター完成
2001年 3月	地球畑 荒田店 開店
2006年 12月	地球畑カフェ 草原をわたる船 開店
2008年 5月	地球畑 谷山店 開店
2008年 7月	直営農場 大口農場 生産事業開始
2009年 4月	鹿児島有機農業支援センター設置 研修事業開始 育苗ハウス建設 育苗事業開始
2012年 7月	直営農場 喜入あさやけ農場 開設
2013年 8月	EC事業部(ネット通販) 開始
2017年 7月	海外事業部開設 ネパール支援事業スタート
2018年 4月	輸出事業スタート
2021年 12月	南種子町 「『有機農業』を軸とした地域活性化に関する包括連携協定」締結
2022年 4月	種子島事業部 開設
2022年 12月	ベビーフード加工場 新設



# 生産・加工・販売で繋ぐ 『地球畑方式』

『地球畑方式』は、有機農産物の生産、加工、販売までを一貫して行う方式

## 生産



約160の協力農家  
地域部会、品目部会を組織



3か所の直営農場  
新たな品目の試験栽培等

## 加工



“地球畑 original”としてブランド化



オーガニックベビーフード



有機JAS認証の加工場



## 販売



直営店3か所、カフェ1か所を運営

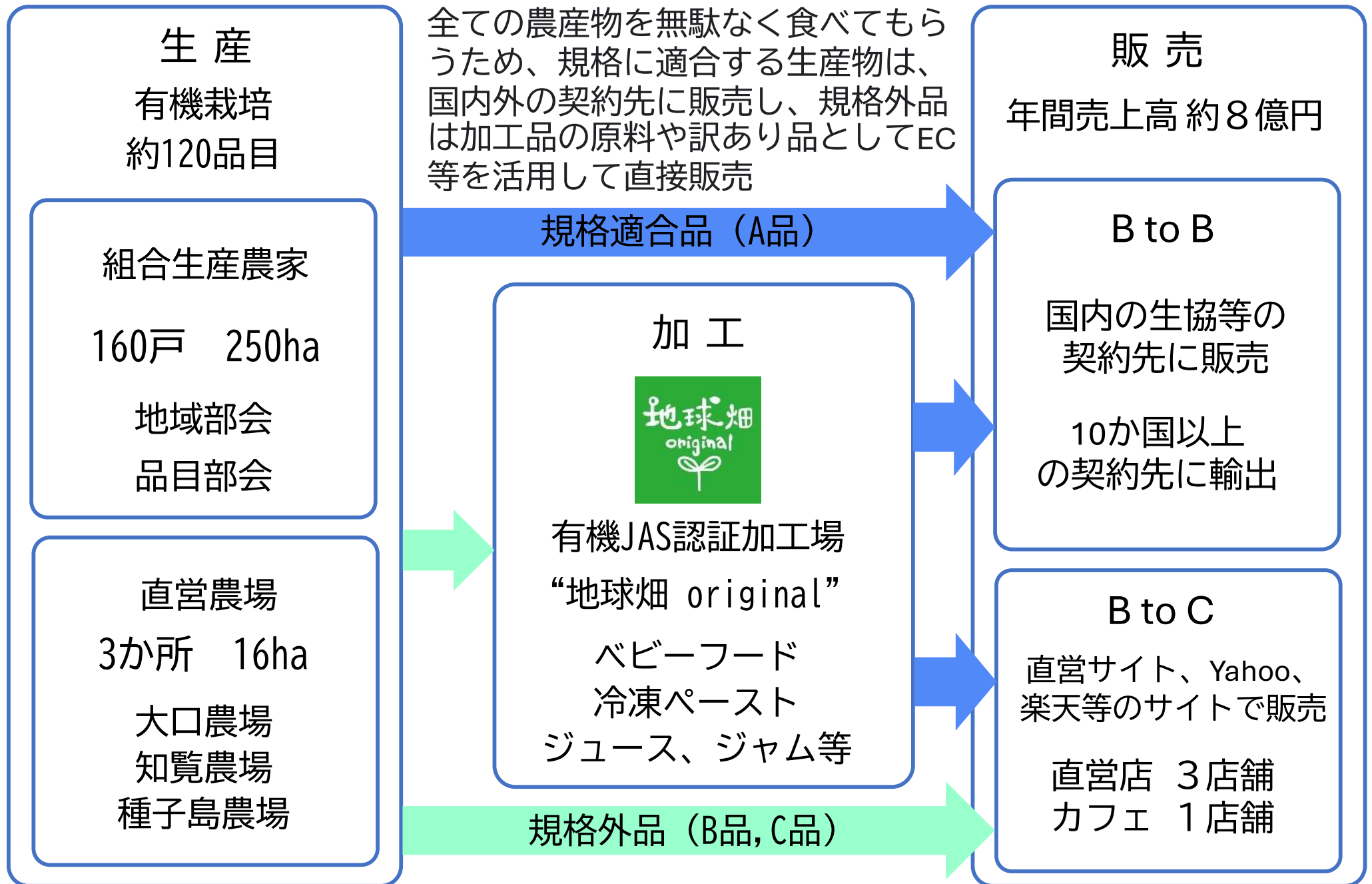


ECを活用し、消費者に直接販売



10か国以上に輸出

# 生産から販売の流れ





# 人の繋がりが生産の礎

- 約160戸の組合生産農家が、地域支部会と品目部会を組織
- 研修会を行い、病害虫等の情報、知識、ノウハウ、経験等を農家間で共有



地域支部会



情報共有と意見交換



先進農家への現地研修



# 有機の栽培事例をとりまとめた「有機百培」

- 様々な作物の有機での栽培事例をまとめた「有機百培」を鹿児島県とともに作成

有機農業の手引き

## 有機百培（栽培編）



平成31年 2月

鹿児島県農政部

### Ⅲ 有機野菜栽培事例

栽培事例

#### A 根菜類

##### 1 ばれいしょ（ナス科）

##### (1) 作型と品種

作型	栽培様式	植付期	収穫期	適品種	適地
早掘り(本土)	マルチトンネル	11月下旬～1月中旬	3月中旬～5月上旬	ニシユタカ、メークイン	沿岸部適地
春作	マルチ裸地	1月中旬～3月上旬	5月上旬～6月中旬	ニシユタカ、メークイン、デジマ	本土各地
春作(加工用)	マルチ	1月中旬～2月上旬	5月中旬～6月中旬	トヨシロ	本土各地
秋作	裸地	8月上旬～9月上旬	11月下旬～1月下旬	ニシユタカ、デジマ	本土各地
早春作	マルチ裸地	9月下旬～10月上旬	2月上旬～3月上旬	ニシユタカ	沿岸部適地
早掘り(大島・熊毛)	裸地マルチ	10月下旬～12月上旬	1月下旬～4月下旬	ニシユタカ、デジマ、ホツカイコガネ、メークイン	大島・熊毛

##### (2) 栽培技術

###### ア 施肥量

基肥 油粕 200kg/10a, 米ぬか 100～300kg/10a

###### イ 作式

春作 畝幅60～75cm, 株間20～30cm

秋作 畝幅60～65cm, 株間15～20cm

###### ウ 定植

・無病の種芋を10a当たり200～240kg用意し、1片が30～40g程度に頂芽を中心に縦切りする。秋作はいも腐敗が発生しやすく、小芋を選び切断しない方がよく、密植する。

・萌芽には10℃以上の気温が必要であり、定植は晩霜あるいは初霜を考慮した時期に行う。

・定植方法は、切り口を下にして配置し、10cm前後の覆土とする。露地栽培の場合は後で土寄せを行うので覆土5cmくらいの浅植えとする。

###### エ マルチ張り

適当な土壌水分の状態を確認し、マルチを張る。

###### オ 芽出し(マルチ栽培), 芽かき

芽出しは、芽が見えてきたらマルチを小さく破る。萌芽揃い後、1株当たり1～2本になるように芽かきを行う。特にメークインは着生いも個数が多く、小さいになりやすいので芽かきは必ず行う。

###### カ 中耕・土寄せ(露地栽培)

露地栽培では、萌芽揃い直後と着蕾期の2回中耕、土寄せを行う。特に2回目はいもの緑化防止のために丁寧に行う。

タネイモの切り方



# 全ての農産物を余すことなく活用する

- 規格外品を有効活用するため、有機JAS認証を受けた加工場を新設
- 「素材に負けない、加工でごまかさない」商品をつくり“地球畑original”ブランドで付加価値を付けて販売



有機JAS認証を受けた新加工場



ベビーフードシリーズ



製造工程



ジュース



野菜スナック



# 国内外の様々な地域に繋ぐ

- 有機農業に理解のある消費者に繋がっている生協等を中心に契約販売
- 海外での有機農産物のニーズにも対応し、10か国以上に輸出の実績



自社所有のトラック



梱包・配送状況



海外での商談会



# 加工工場の新設・ISO22000取得

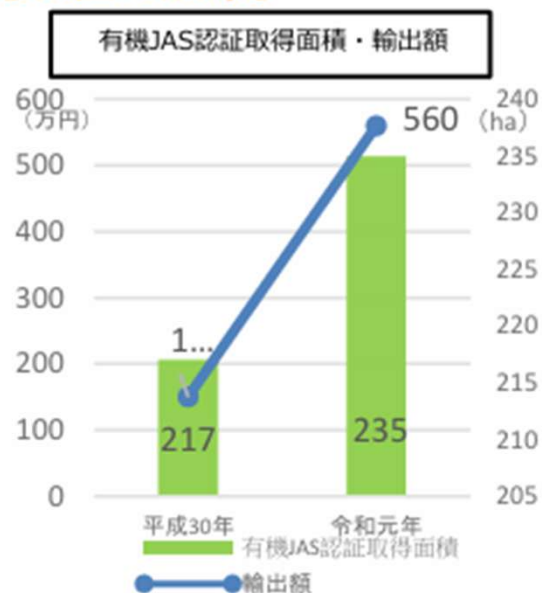
- 加工工場の新設に強い農業づくり交付金を活用
- オーガニックベビーフードの海外への輸出に向けて補助金を活用してISO22000を取得

## 有限会社かごしま有機生産組合（鹿児島県鹿児島市）

### 《取組の特徴》

- 県産有機農産物の輸出拡大
- 冷凍焼き芋、オーガニックベビーフード等の輸出向け商品開発 等

### 《取組の成果》



### 《取組のポイント》

✓ 国内外問わず商談会に積極的に参加、新たに需要を拡大し**香港向けに20品目の農産物の輸出**に成功

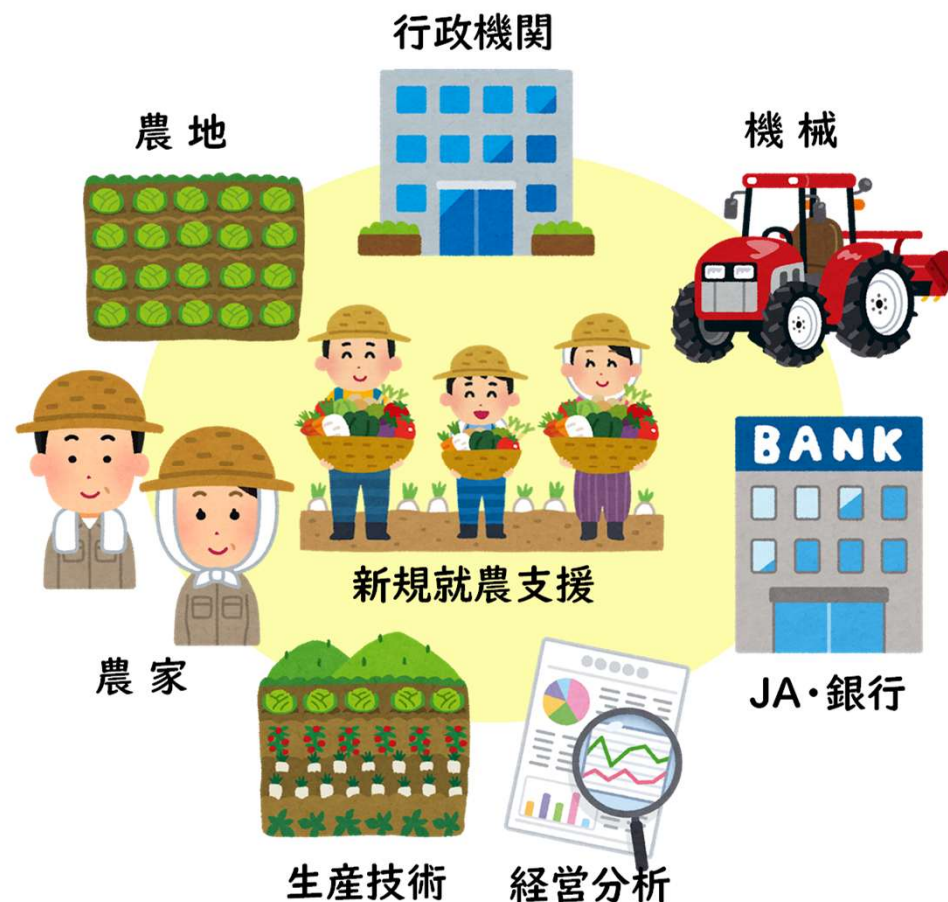
✓ 海外での需要を見据え、**冷凍焼き芋、オーガニックベビーフード等の輸出向け商品を開発。**



▲ 中東向け需要開拓に向けた商談会の様子

# 新規就農者の育成

- 新規就農者研修機関に認定され、研修を通じて新規就農者を育成
- 組合生産者のうち約4割が新規就農者研修又は直営農場職員から就農しており、組合の生産の中核を担っている
- 毎月の座学研修や、各地域での新規就農者の補助金の活用について、鹿児島県や市町村と連携。経営計画の作成、農地・機械等の準備を着実に進めることが重要



鹿児島有機農業技術支援センター  
座学の様子



# スマート農業の活用 有機育苗事業・農機レンタル

- スマート農業実証事業を活用し、育苗ハウスに統合環境制御システムを導入して有機育苗を実施 品質が良く適切な価格の有機苗を組合員生産者に安定供給
- グリーンな栽培体系サポート事業を活用し、有機水稻の除草に効果的なアイガモロボの実証事業を実施し、マニュアルをとりまとめ。現在2台保有し、組合員生産者にレンタル



統合環境制御システムを導入した育苗ハウス



アイガモロボ(自動抑草ロボット)を活用した水稻有機栽培マニュアルーかごしま有機生産組合



# 有機農業を軸とした地域活性化

- 南種子町と『有機農業』を軸とした地域活性化に関する包括連携協定を締結
  - ① 土づくりや有機栽培に技術講習会、有機米の試験栽培、有機ほ場の確保
  - ② 保育園・小中学校で有機給食と有機農業体験イベントを実施
  - ③ 町内観光物産館に有機野菜ブースを設置し販売
- 鹿児島市、南九州市でも有機野菜を使用した給食を開始



有機農業体験イベント



有機米試験栽培ほ場

# 取組アイデア ワクワクする品目・品種 プロジェクト

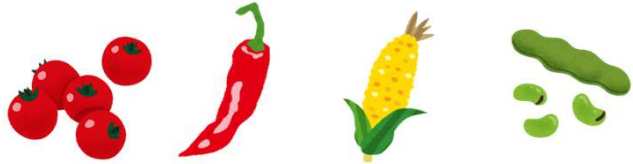
## ◎ 品目・品種を戦略的に試し、経験を積み上げる

☆ 生産者、組合、実需者、種苗会社、行政、研究機関等が定期的集まって取組の進捗や成果を共有できるチームを作りたい

大量少品目



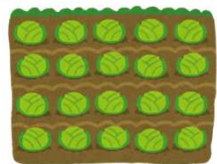
少量多品目



果樹



- ・ 実需者が求める品目・品種
- ・ 個性的でワクワクする品目・品種
- ・ 暑い時期でも作れる品目・品種
- ・ 他産地が作れない時期に作れる品目・品種



- ・ 直営農場や生産者が試験的に栽培
- ・ アグリノートで生育状況・収量等を記録
- ・ 結果を共有し、本栽培に移行するか相談




本格作付けに移行

# 取組アイデア 一次処理・冷凍加工プロジェクト

- 一次処理加工で有機給食、外食産業などの売り先を拡大
- パウダー加工でB品の受け入れ拡大
- 冷凍加工で売り先拡大、付加価値向上、ロス削減
- 香り・エキスなど色々な用途での加工の可能性

★ 将来的に一次処理加工や冷凍加工を組合で行いたい



美味しさの見える化



カット野菜  
付加価値向上  
販路拡大

冷凍野菜  
冷凍して時を止める  
販売できる期間を延ばす



Vitamin  
栄養価の分析  
付加価値向上



取引先の調理の手間・時間を削減 有機農産物の活用が可能に